

“看取り”にまで格差—自宅での看取り割合にも経済的な余裕で1.8倍の差

経済水準の低い世帯の高齢者は、自宅で死亡する割合が32.5%と、高い世帯の57.7%と比べ1.8倍の差が見られた。看取った家族の「看取りの満足度」も低いことなど“看取り”の状況にまで格差があることが、訪問看護ステーションを対象とした全国調査データの再分析から浮かび上がった。

この研究結果は、日本社会福祉学会の機関誌『社会福祉学』52巻1号*1に掲載された。

<連絡先> 杉本浩章 日本福祉大学福祉経営学部（通信教育）・社会福祉実習教育研究センター助教
〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田 TEL：0569-87-2211 E-mail：h-sugi@n-fukushi.ac.jp
近藤克則 日本福祉大学大学院医療・福祉マネジメント研究科長，健康社会研究センター長
E-mail：kkondo@n-fukushi.ac.jp

背景 社会階層間で健康状態に違いがみられる「健康格差」は、わが国でも注目されるようになり、その存在が徐々に明らかにされてきた。

しかし、わが国で受けられるケアにおける格差は明らかにされていなかった。

そこで、訪問看護ステーションを利用した後に死亡した高齢者を対象とした全国調査データを再分析して、“終末期ケア”の実態や“看取り”における格差を世帯の経済水準で比較分析した。

対象と方法 調査対象は、1998年8月時点での全国すべての訪問看護ステーション2,935事業所のうち、第1次調査において「第2次調査に協力する」と回答した856事業所（29.2%）である。

調査方法は、質問紙を用いた郵送調査で、1999年9月から11月までの3か月間に死亡したすべての利用者の情報を求めた。その結果、427事業所（回収率49.9%）から1,422人分の情報提供があり、うち、65歳以上の高齢者で世帯の経済水準について回答のあった1,265人を分析対象とした。調査票への記載者は、当該ケースを担当した看護師である。世帯の経済水準は、生活保護世帯レベルの経済力を「低い」として、担当看護師が5群（低い、やや低い、ふつう、やや余裕あり、余裕あり）で判断した。なお、本分析以外の調査の詳細は、すでに書籍*2として発表済みである。

主な結果

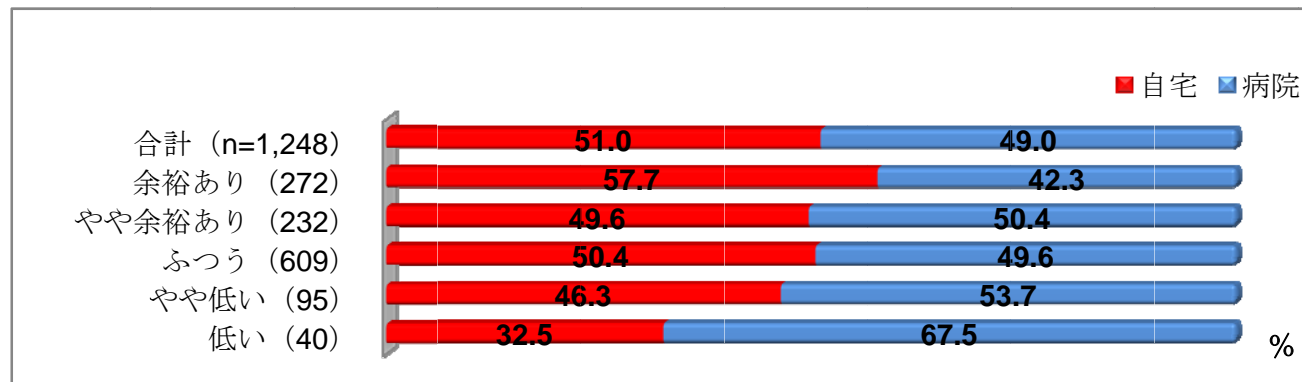


図1 世帯の経済水準別 死亡場所

世帯の経済水準が「余裕あり」の世帯で「自宅」での看取りが57.7%に対し「ふつう」「やや余裕あり」世帯では、5割前後で、「低い」世帯では32.5%にとどまった ($\chi^2=11.5$, $p<0.05$)。

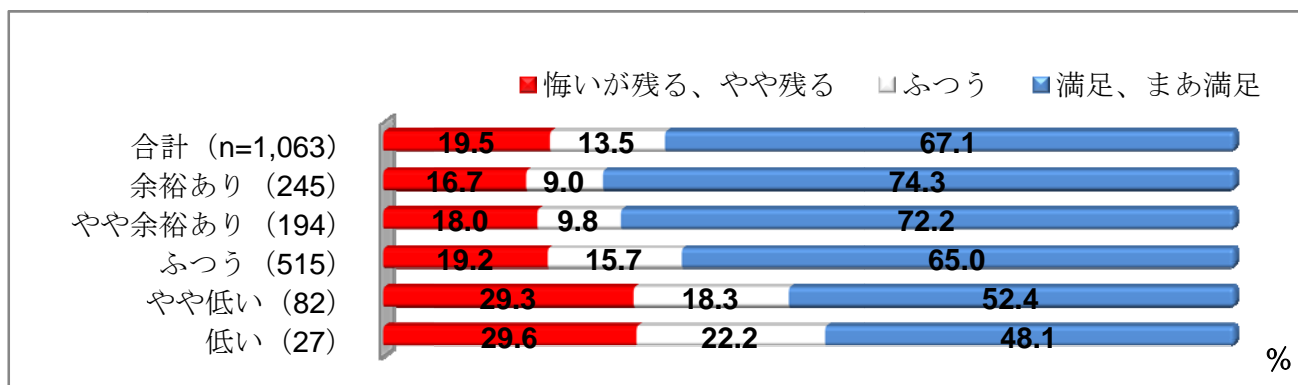


図2 世帯の経済水準別 家族の満足度

看取りの質について、担当看護師が推定した「家族の満足度」は、「余裕あり」「やや余裕あり」世帯では「満足」「まあ満足」と推定された割合が7割強と高い。一方で、経済水準の低い2群では5割前後にとどまり、満足度の低かった。その他論文では、介護力（主介護者2人以上相当の割合に10.0倍の格差）、在宅療養の望みの実現度（実現した割合に1.8倍の格差）、ケアの質の評価（「質が高い」評価の割合に2.2倍の格差）などにも格差が見られることを報告している。

結論 経済水準の低い世帯では、介護力が乏しい中で在宅療養を開始し、介護力の不足から入院・入所に至るケースが、経済水準に余裕のある層に比べ多い。また、在宅療養継続への揺らぎをもちながら介護にあたり、自宅での死亡割合は低く、療養や看取りの質も低い。終末期ケアを巡る介護条件や介護の過程、看取りの質にも世帯の経済水準による格差「終末期ケア格差」あるいは「看取り格差」が、1999年当時存在したことが示された。

本研究の意義 本研究の意義は、これまで明らかにされていなかった、わが国の“終末期ケア”や“看取り”における格差の存在を全国調査データの再分析によって明らかにしたことである。

介護保険制度導入の直前に収集したデータをもとにしているが、医療・介護保障制度において応益原則が強化されており、世帯の経済水準に基づく“看取り”の格差が今も存在し、拡大している可能性は高い。

WHO（世界保健機関）は、このような健康格差・医療格差をモニタリングし、是正すべきという加盟諸国への勧告*3を総会で決議しており、実際に海外では、政府や国立研究機関が報告書*4を出す動きが広がっている。10月にはWHOはこれをテーマとする国際会議を開催する*5。日本でも、経時的なモニタリングと是正が望まれる。

謝辞 本研究は、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の助成を受けて実施した。

（出典）

- *1 杉本浩章・近藤克則・樋口京子（2011）「世帯の経済水準による終末期ケア格差—在宅療養高齢者を対象とした全国調査から」『社会福祉学』52(1), 109-122
- *2 宮田和明・近藤克則・樋口京子編（2004）『在宅高齢者の終末期ケア—全国訪問看護ステーション調査に学ぶ』中央法規出版
- *3 WHO: RESOLUTIONS WHA62.14 Reducing health inequities through action on the social determinants of health 2009.
http://apps.who.int/gb/ebwha/pdf_files/WHA62-REC1/WHA62_REC1-en-P3.pdf:
- *4 <http://www.cdc.gov/mmwr/pdf/other/su6001.pdf?source=govdelivery>
- *5 <http://www.who.int/sdhconference/en/>